

県内熱中症搬送 400人超

55%高齢者 2番目に多いペース

全国的に厳しい暑さが続く中、福井県内の今年の熱中症による救急搬送者数は既に400人を超え、統計のある2011年以降で2番目に多いペースとなっている。搬送者の55%を65歳以上の高齢者が占めており、農作業中やエアコンを使っていなかったケースが目立つといふ。

(嶋本祥之)

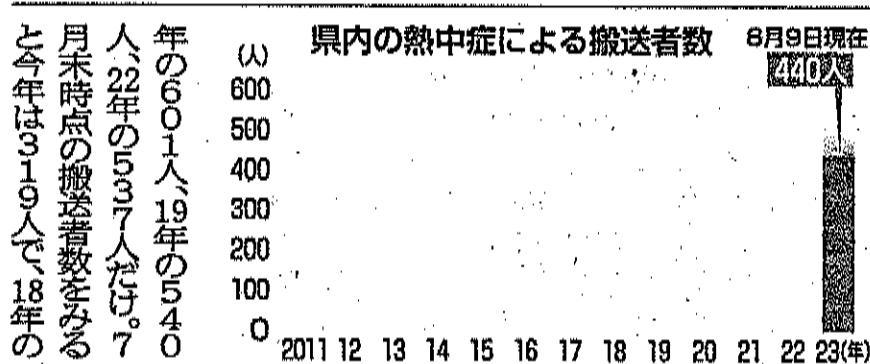
県消防保安課によると、今年5月以降の搬送者数は8月9日現在で440人。「」のうち240人が高齢者で、7歳は56人となっている。

搬送者が増え始めたのは梅雨明け直前の7月中旬。同23日以降は連日のようないつもを超えて20人に達した場所は、自家敷地内が4

割を占め174人。農作業中や、寝室など室内でエアコンを使っていたなかった状態が目立つという。

症状は、3週間以上の入院が必要な「重症」は3人、「中等症」は145人、入院を伴わない「軽症」が292人。

4月から10月までの合計



福井新聞のまとめでは、10日午後5時までの24時間に県内で7人が熱中症とみられる症状で救急搬送された。環境省と気象庁は11日も熱中症の危険性が極めて高い状況が予測されるとして福井県などに「熱中症警戒アラート」を出した。16日連続で、県消防保安課は「暑さを避けて」「まめに水分補給を」と呼びかけている。